

気候変動に関する世界ビジネス・サミット

桜井代表幹事らが出席し、世界の経営者と議論

桜井代表幹事がディスカッション・リーダーとして登壇



(Copenhagen Climate Councilホームページより)

去る5月24～26日、世界の経営者ら約500名がコペンハーゲン（デンマーク）に結集し、「気候変動に関する世界ビジネス・サミット」が開催された。デンマークのコペンハーゲン気候評議会が主催したこの会議は、「ポスト京都」の新しい枠組み合意を目指すCOP15の議長国である同国政府の全面協力の下、低炭素社会に向けた“産業革命”に乗り出す経済界の意欲を示し、COP15に向けて積極的な提言を行うことを目的としており、経済同友会からは桜井正光代表幹事、田幡直樹地球環境問題委員会副委員長が参加した。

グリーンな成長の実現へ

3日間にわたる会議には、世界約40カ国の企業経営者（CEOクラス）をはじめ、潘基文国連事務総長、アル・ゴア元米副大統領、R・K・パチャウリIPCC議長、ジョゼ・マヌエル・バロゾ欧州委員会委員長、コニー・ヘデゴー デンマーク気候・エネルギー大臣など気候変動問題に関するキーパーソンも顔をそろえ、「グリーン・エコノミーの形成」「気候変動に関する革新的ビジネス」「低炭素経済への迅速な転換」などの全体パネルや、専門テーマ（技術、金融、エネルギー効率、炭素市場、森林等）に関する分科会においてさまざまな議論が行われた。

桜井代表幹事は、初日の「新しいグリーン・エコノミーの形成」と題するパネルにディスカッション・リーダーの一人として登壇した。こ

のパネルでは、金融危機と気候変動という2つの「危機」をいかに「好機」に変え、持続可能な成長を成し遂げるかが中心論点であり、桜井代表幹事は「金融危機のあおりを受け、日本経済は急激に低迷したが、日本には相当な生産性の高さ、技術、イノベーションがある。日本のグリーンな成長で、危機からの脱出および脱出後の世界経済の成長・発展に確実に貢献できると考えている。経済危機は、金融危機から始まったが、それは実体経済に既にある歪みを直撃した。この歪みとは、資源は無限にあるから無駄使いをしても構わないという観念で、これを是正し、有限な資源を有効に使わなければならない」と発言した。また、桜井代表幹事が、日本

の中期目標に関して「首相が発表するので具体的な数値は言わないが、意味のある高い目標になると期待している」と述べている」と述べると、会場から拍手がわくなど、日本への期待が寄せられた。

会議期間中には、近藤誠一駐デンマーク日本大使主催

の懇談会も開催され、COP15議長国の雰囲気じかに接している近藤大使を中心に、日本からの会議参加者の間で活発な意見交換が行われた。

「コペンハーゲン・コール」

最終日には、「コペンハーゲン・コール」と題する政策提言が採択され、COP15議長国であるデンマークのラスムセン首相に手渡されて、会議は幕を閉じた。同提言の概要は、以下の通りである。

- 1 今こそ、長期的な低炭素経済の繁栄の礎を築く好機であり、産業界は政府と協働していく。排出削減に必要な新インフラへの投資を通じて、経済と雇用を押し上げていく。
- 2 IPCC第4次報告書の科学的根拠を支持し、COP15での野心的な目標設定を求める。産業界は、この条約と各国の政策を通じて確立した枠組みの中で、イノベーションを行い、事業を展開する用意がある。
- 3 投資家や国民から企業の取り組みが正しく評価されるために、統一され、信頼できる排出量の計測・報告・検証の原則が必要である。
- 4 新技術への官民投資を促進し、排出量を削減し、社会が気候変動の影響に対応できるインフラを整備する。
- 5 森林保護と炭素吸収を高めるための革新的手法を開発する。



大使公邸に日本からの参加者を迎えて懇談会を開催